

# ハイブリッド・レコーダ

# HR2300/2400

HR1300, HR2300, HR2400は、横河電機の高橋です。

最大接続台数	品番	GP・IBボード	価格	動作環境
1台	W32・HR2300-R	ラトックシステム社	55,000円 (消費税は含まれておりません。)	Win98SE/Me Win2000/XP Excel2000 Excel2002/2003
	W32・HR2300-C	コンテック社		
	W32・HR2300-N	NI社		
2台	W32・HR23002-R	ラトックシステム社	85,000円 (消費税は含まれておりません。)	
	W32・HR23002-C	コンテック社		
	W32・HR23002-N	NI社		
使用できる機種 HR1300,HR2300,HR2400,HR2500(Max.30ch)				

## 機能

ハイブリッドレコーダから取り込んだデータをリアルタイムにExcelシート上に表示します。最大200,000回(Max.30ch)までのデータ取込が可能です。

各チャンネルのファンクション、レンジ、スパンの切替もパソコンから行うことができます。

係数演算により、別の単位系へ変換しながらデータを取込むことができます。

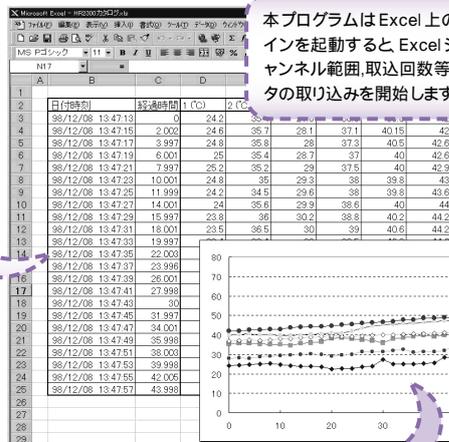
スキャンデータを間引きしながらデータを取込むことができます。

W32・HR23002(2台用)には、メモ리카ードのデータを読み出す機能があります。



## 概要

スタートするとハイブリッド・レコーダのスキャンと同期を取りながら指定されたスキャン回数のデータを取込みます。データはスキャン毎にExcelシートに表示されます。必要なら日付時刻も付加することができます。



本プログラムはExcel上のアドインとして動作します。Excel上から本アドインを起動するとExcelシート上に、このウィンドウが現われます。取込チャンネル範囲、取込回数等を設定し「START」ボタンをクリックするとデータの取り込みを開始します。



測定中は、データ表示を邪魔しないように、ウィンドウは下図のように縮小表示となります。



Excelシートに取込んだデータは、キーボードから入力したデータと同じように、Excelの機能を利用して、作図・編集・計算等を自由に行うことができます。また、事前にデータが取込まれる領域をExcelのグラフウィザードで設定しておけば、データ取込とグラフ化がリアルタイムに入ります。本アドインに自動グラフ作図機能はありませんので、Excelのグラフウィザードを使用して作図してください。

## 操作説明

注) 全ての図は、W32・HR23002(2台用)の場合の図です。

測定器側で設定したインターバル時間間隔で測定器からデータの取込を開始します。インターバル時間の設定は、測定器取扱説明書の「SETUPの設定」の項を参照ください。

測定中は「赤色」、ポーズ中は「青色」、停止中は「灰色」となります。

Excelシートへのデータの取込を一時中止します。もう一度クリックすると、取込を再開します。ただし、測定器の動作は中断しません。

測定中のモニターチャンネルを指定します。スキャン中にも変更可能です。画面の外に隠れてしまったチャンネルのデータを観る時に便利です。

データを取込むスキャン回数を指定します。但し、「STOP」ボタンでいつでも中断できます。また、何も入力されていないときは、200,000回と解釈されます。入力できる最大回数は、200,000回です。スキャン・インターバル時間は、測定器の「SETUP」の設定で設定したインターバル時間で決まります。

測定に使用する機器をチェックします。

データを取り込むチャンネル範囲を設定します。スキップに設定されたチャンネルのデータは、飛ばされます。

データの取込を停止します。

測定中、スキャンの残り回数を表示します。

指定されたモニターチャンネルのデータを表示します。

データを取込む時の、スキャンの間引き間隔を設定します。例えば「3」と設定すると、3階のスキャン毎に1回のデータをExcelへ取込みます。「Non」は、毎回のスキャンデータを取込みます。

データの入力と共にシートをスクロールします。

データに日付時刻を付加します。ここで表示されるのは測定器から送られた日付時刻です。

最初のデータ取込時、測定チャンネルや単位等のヘッダを付加します。

Excelシート上のカーソルを上下左右に移動し、データ取込開始位置を決定します。「START」の時、現在のカーソル位置からデータの取込みを開始します。

データを入力するExcelを切替えます。

測定チャンネルの設定を行います。

W32・HR23002(2台用)だけの機能です。チェックを付けると「START」ボタンでメモ리카ードからデータを取り込みます。メモ리카ードに記憶されている全てのチャンネルの全てのステップデータを無条件に取り込みます。2台の測定器のメモ리카ードを同時に取り込むことはできません。(次ページ参照)

## 各チャンネルのファンクション、レンジ、スパンの設定を行います。

先頭チャンネルに設定されている内容を下の全てのチャンネルにコピーします。

ファンクション/レンジの設定を行います。「Non」はそのチャンネルの設定を行いません。「SKIP」はそのチャンネルをスキップモードに設定します。

タブシート全体を左右にスクロールします。

条件設定するチャンネル範囲を設定します。左がスタートチャンネル、右がストップチャンネルです。

設定完了後、チャートスタートします。

各チャンネルの名称を入力します。測定開始時、ヘッダとして、Excelに入力されます。空欄の場合、「Ch-1」「Ch-2」等が自動的にヘッダとして使用されます。

チャート紙のスパンレフト値を入力します。初期値はそのレンジの最小値が入力されます。

チャート紙のスパンライト値を入力します。初期値はそのレンジの最大値が入力されます。スパンレフトとライトに有効な値が入力されていないときはスパンの設定は行われません。

上記で設定した条件で、ハイブリッドレコーダの設定を開始します。ただし、設定チャンネル範囲で設定したチャンネルだけが設定されます。また、係数 A/B の設定は行いません。ここでの設定を完了しても、データ取込は開始しません。データ取込を開始する場合は、この画面を閉じた後、前ページの「START」ボタンで開始してください。

測定器本体で設定した GP-IB アドレスと同じ値を設定します。

本ウィンドウを閉じます。

## 各チャンネルデータの演算係数を入力します。

メモリ番号を表示します。各チャンネルの設定条件を30個までメモリに記憶することができます。「\*\*」の表示の場合はメモリへの保存・読み出しはできません。

上記で保存した内容を読み込みます。

タブシートに設定した全チャンネルの内容を保存します。

メモリ番号を選択します。

メモリへ保存するときのコメントを20文字以内で入力します。

係数 A/B による演算後のデータを Excel へ入力する場合、チェックを付けます。チェックがない場合、左の係数 A/B の入力があっても演算は行いません。

測定データを演算して、その結果を Excel シートへ入力します。演算方法は、下記の方法によります。

Excel への入力値 = (測定値 - B) \* A

## メモ리카ードのデータ読込のためのファイル名を指定します。

注) W32 - HR23002(2台用)の場合だけの機能です。

メモ리카ードを測定器本体に装着した後「メモ리카ード読込」にチェックを付け、「START」ボタンをクリックすると、メモ리카ード内のファイル一覧表が表示されます。読み込むファイルを選択し、「OK」をクリックするとデータの読込を開始します。読込は、ファイルに記憶されている全てのチャンネル/全てのデータを一括して読み込みます。読込の速度は、1秒当り約8ステップですが、パソコンの性能により変化します。最大の取込ステップ数は、Excelシートの最下行に到達するまでです。